

平成 21 年 4 月 29 日現在

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2006 年 - 2009 年

課題番号：18200016

研究課題名（和文） 情報専門職養成をめざした図書館情報学教育の再編成

研究課題名（英文） Reorganization of library and information science education aimed at training of information professionals

研究代表者 根本 彰（NEMOTO AKIRA）

東京大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：90172759

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目： 分科 = 情報学 細目 = 図書館情報学・人文社会情報学

キーワード：図書館情報学教育、司書養成、情報専門職

## 1. 研究計画の概要

次の3つの事項を中心にして、図書館情報学教育の質を高め、図書館情報専門職の社会的ステータスを上げるための理論的実践的研究を行う。

(1) 図書館情報学教育のカリキュラム開発および教育方法の研究

平成 21 年に文部科学省が公示予定の図書館司書の新科目表にあわせて、これを図書館情報学教育普及の重要な契機ととらえて、そのための実践的研究を行う。平成 15 年 LIPER 提言のコア領域科目について、必要な知識技能の再点検のための研究会活動を継続し、それぞれの分野における既存のカリキュラム内容の問題点を洗い出す。情報資源組織化、遠隔教育の可能性、学校図書館関係専門職などを中心に検討を進める。

(2) 図書館情報学検定試験のための準備作業

上記の実践的研究の重要な柱として図書館情報学検定試験の実施可能性を検討する。本格実施に先立ち、数年間、試行して、試験方法の検討、問題作成と検討、評価方法、募集や実施に関する評価を行う。また、本格実施するために必要な社会的条件についての研究を進める。

(3) A-LIEP2009 国際会議への取り組み

日本の図書館情報学の国際的プレゼンス向上とアジア太平洋地域の諸国の研究者との相互交流を目的として、アジア太平洋図書館・情報教育国際会議（A-LIEP2009）の開催に協力する。A-LIEP は本研究の前身から生み出された国際会議でありすでにシンガポール、台北で開催されているがこれを日本で開催するための取り組みを行う。

## 2. 研究の進捗状況

4 年計画の 3 年目が終わった時点で、(1)のなかでは、図書館情報学カリキュラムの研究について文部科学省の司書養成科目の検討と歩を合わせて進めてきた。学校図書館や遠隔教育、情報資源組織化についてはそれぞれのグループでの検討がまとまってきている。

(2)の検定試験についてはきわめて順調である。19 年度に 24 問の試験問題を作成して 550 名ほどの学生に受験してもらった結果を綿密に分析した。20 年度は問題数を 50 問に増やすとともに、個々の大学ではなく国内 3 箇所の受験場を指定したうえで実施した。その結果、240 名程度の受験者を迎えて試験実施のシミュレーションを行うことができた。2 度の試験の結果を分析することで、受験者の学年、履修済みかどうか、専門課程と司書課程の違い、地域などの変数と全得点、分野ごとの得点との関係を詳細に分析することができた。

(3)の国際会議についてはちょうど本年 3 月に終了したところで、内外から 190 名近くの参加者を得て、図書館情報学教育を集中的に議論する場をつくることができた。とくにシンポジウムでは、アメリカ、デンマーク、シンガポール、韓国から招致したゲストとともに図書館情報学教育と図書館情報学研究の動向について意見交換を行い、日本の状況についての説明も行った。このほか A-LIEP2009 では共同研究チーム関連で 4 本の報告を行っている。また、日本人の参加者向けに上記の検定試験に関するワークショップを開催した

以上のように、ほぼ順調な進捗状況を示しているといえよう。

### 3. 現在までの達成度

第一に、カリキュラムと教育方法の検討についてはすでに相当数の研究数を公表してきたが、まだ、まとめて統一的な見解を出すにはいたっていない。最終年にこの作業を行う予定にしている。第二に、A-LIEP2009の開催を通じて、図書館情報学は従来日本国内に閉じこもった状況があったが、この共同研究をきっかけにして国際的な情報発信とアジア諸国を中心とした相互コミュニケーションを可能にする体制をつくることのできたという意味で目標は達成されたといえる。第三に、検定試験は準備の過程にあるが、これを通じて、従来の評価を避けた司書養成の状況に新しいパラダイムを持ち込むことができた。予定した効果は現れつつあるといえよう。

この研究の実践的な意味であるが、この研究の前身の共同研究が刺激となって、文部科学省の司書養成カリキュラムに60年ぶりに「大学における図書館の科目」の制度化をもたらす力となったことは確かである。大学で図書館の科目を実施するためには、大学関係者による自発的な教育評価プログラムをつくることは当然であり、そのことを予見しつつこの研究を実施することができた。以上のように、戦後確立した司書養成のきわめて安易な教育体制に、国際化とアカウンタビリティの外的な指標と関係機関による共同的な試験による評価という内部的な指標を導入することで、実践的にも学術的にも新しい状況をつくりつつあるところである。

### 4. 今後の研究の推進方策

研究代表者は日本図書館情報学会会長を務めていることから、検定試験の実施をとりあえず21年度から学会の新規の事業として採用することを計画している。つまり、これまで学術研究の一環として実験的に進めてきたものを、対社会的に認知されるかたちで公開の場で実施しようというものである。これによって大きな責任が生じことは必須で、そのための対策をとる必要があるが、この形にもっていくことで、この研究は単なる学術的な仮説から社会的な実験の段階へと進むことになる。

そのために、今後はこの実践的な研究を総合的にまとめて社会的に発信していくことを課題にする。すでに、研究成果を外部に示すためのパネルディスカッションの実施、作成した問題の解説集の出版、図書館情報学教育の標準化をめざすための教科書執筆の企画、本研究で不足していた図書館情報学教育の理論的、歴史的側面からの研究といったことを最後の年の研究課題として予定している。

### 5. 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕(計 18 件)

・ Makiko Miwa, Yumiko Kasai, Shizuko Miyahara. Toward Mutual Accreditation and Credit Exchange among LIS Programs in the Asia-Pacific Region. *Journal of Librarianship and Information Studies*, Vol. 65, 2008, p.1-13.(査読あり)

・ 村上 泰子, 北 克一. 司書科目「資料組織演習」環境の現代化とメタデータ入力環境構築の試作 資料組織化研究 No.54, 2008, p. 27-36. (査読あり)

・ 平久江祐司 日本の小学校図書館担当者の職務の現状と意識に関する研究--学習情報センターにおける図書館担当者の職務構成の在り方 *Library and information science* No. 59, 2008, p. 1-39 (査読あり)

・ 根本彰「司書講習等の改善に関することについて(報告)」(1967)の解説, *日本図書館情報学会誌*, Vol.53, 2007. p.172-182. (査読あり)

〔学会発表〕(計 20 件)

・ Mitsuhiro Oda. "Professional Development and Training for Librarians in e-Learning Environment" 文献情報処理研究会(韓国, 延世大学) 2008.11.14

・ Makiko Miwa, Yumiko Kasai, Shizuko Miyahara. Toward Mutual Accreditation and Credit Exchange among LIS Programs in the Asia-Pacific Region. *The ASIA Pacific Conference on Library & Information Education & Practice 2007 (2nd A-LIEP 2007)*, Shih-Hsin University, November 23-24, 2007, Taipei, Taiwan.

・ Akira Nemoto. "Embracing Books: Japanese Librarianship during the Allied Powers' Occupation, 1945-1952", *American Library Association - Library History Roundtable. Edward G. Holley Memorial Lecture*, 24 June 2007, Washington D. C., USA.

〔図書〕(計 5 件)

・ 北 克一, 村上泰子共著, M.B.A.刊, 資料組織演習一書誌ユーティリティ、コンピュータ目録一 改訂第2版, 2008. 242p.

・ 永田治樹ほか、筑波大学附属図書館刊, 大学図書館職員の専門性と人材育成の在り方に関する研究, 筑波大学附属図書館研究開発室年次報告平成 18~19 年度, 2009, p.33-50.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)